

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 わらすば
代表者・役職名 氏名 理事長 大内 玲子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

わらすば ・50円食堂 ・家族食堂(地域によって変えている)

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

子どもの貧困をなくすことを目的としている。週1回の子ども食堂の開催。母親の家事軽減にもなればと、月2回夕食の弁当配布を大人料金¥300・子ども何人でも無料で提供している。毎日の居場所では、学習支援をしている。宿題はわらすばです。家ではしなくてもよい状態を作っている。おやつも毎日提供している。できるだけ手作りのものをと、手をかける努力をしている。母親が行基になったり、母親がストレスを抱える状態は危険のスタートと判断し、できるだけ母親のストレスを少なくできるようにと支援を重ねている

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

・コロナ過で、子ども食堂の食数を増やすことができず、現状維持の状態となる。しかし、月2回の夕食弁当は、家族食堂の弁当と合わせると、月に約200食前後を提供している。その結果、弁当の配食では、独居老人の元気確認が出来たり、高齢者の居場所の提供になったりと必要不可欠なこととなっている。お弁当配布は調理師さんを増やし、今後も多くの食数を提供できるようにしていきたいと考えている。
成果・提供食数については、別紙資料を参考してほしい。
・お弁当配布では、お母さん方の家事軽減の一役になっている他に一家団欒の場の提供へと各家庭での食事の場を提供できている
・社会的な変化については、子ども食堂の存在をまず知ってもらえたことと、他の子ども食堂と協力して職の提供ができたことは最大の成果である。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

・コロナ過が落ち着いてきたので、限定していた地区の撤廃をし、多くの地区から誰でも来れる場所へと変えていく予定である。
・お弁当の配布については、キッチンカーを準備し、山間地の子ども達にも届ける工夫をしていきたいと考えている。
・職で困っている人がのであれば、その人たちへの支援の輪が広がる活動を今後も継続していきたいと考えている

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

